

華夷譯語の編者馬沙亦黑

故那珂博士が名著成吉思汗實錄の序論に、元朝祕史の譯者の一人を馬沙亦黑なる蒙古人であると斷ぜられた頃に自分は内藤博士から馬沙亦黑に關したことが清眞釋義補輯といふ書物に出て居ると聞いたことがあつた（この当時の大阪朝日新聞に同博士の載せられた成吉思汗實錄の評論中にも見えて居たと記憶する）。此の人はまた華夷譯語の編者の一人であることが、明の實錄に記されて居るのであるから、此の異聞に就いては少からず興味を感じたのであつたが、爾來研究の機會を得ないで、殆んど十年後の今となつた、先き頃或る研究の序に漸く此の書を借覽して、かれこれ検討する機會を得たから、知り得た所を書き付けて同學の一餐に供する。

清眞釋義補輯なる書は光緒六年に唐傳猷なる人の輯めたもので上下二卷に分れて居るが、いふ迄もなく清眞教即ち回々教に關した書物で、その教義、教徒の傳記、もしくは其の事績に關したことなどが收めてある、もとの清眞釋義は金天柱なる人の著したもので、補輯の巻頭には此の人の自序が乾隆三年戊午仲春望と日附けして載せてあ